

来年は母校創立百周年

東京とどの実会長

昭和42年卒 広川 正三



コロナ禍の影響で昨年中止になり本年六月に延期されていた『第70回東京と

どの実会の集い』は役員幹事会で慎重に検討した結果まことに残念ですが再度中止・延期することになりました。毎年楽しみにされている会員のみなさんにとって2年連続の延期になりますが新型コロナウィルスから皆さんを守るためには再度の延期もやむを得ないとの結論にいたしました。1日も早くコロナ禍が終息し来年は必ず開催できることを心から願うばかりです。

来年二〇二二年は母校創立百周年にあたります。母校は大正11年（一九二二年）4月15日「北海道庁野付牛中学校」として開校しました。その後、「北海道庁立北見中学校」「北海道北見高等学校」「北海道北見高等学校」と校名は変わりましたが文武両道 質実剛健の校訓の基、勉学にスポーツにオホーツク管内屈指の伝統校として3万1千余名の卒業生を世に輩出してきました。北見の「とどの実会」では開校百周年に向け記念事業を計画しているとのことですので、東京とどの実会も連携して母校創立百周年を祝いたいと考えています。

コロナ禍での近況を語ってくれました

昭和52年卒 引地 聰

コロナ禍のミュージアム運営

現在、日本に企業ミュージアムは七五〇館以上あると言われていますが、いずれもこのコロナ禍において休館、あるいは予約制の導入や入場者数を絞るなど、大きな制限を余儀なくされています。私の勤務する花王ミュージアムは企業ミュージアムですが、「清浄文化史」の展示を中心として、二〇〇七年に開館しましたが、現在、一年以上休館しています。



花王ミュージアム

このような状況で、多くのミュージアムが認識したことは、「館」としての物理的な存在だけでは今後ミュージアムを運営して行けない、つまり、ネットを通じての見学などが必須である、ということです。言い換えると、「時空を超えて繋がるミュージアム」でなければならぬ

で交友を深め酒を酌み交わしたのが始まりで、異郷の地で母校を共にする者たちが年に一度くらいは集まって声高らかに校歌を歌おうじゃないかという趣旨で定期的な集いとなったそうです。以来、諸先輩たちのご努力のお陰でクラスメートに再会できる場、懐かしいあの頃に戻れる場、世代を超えてたくさんの新たな校友との出会いの場として継続発展し今日まで69回の集いを開催するに至っています。

開催にあたっては、ちょうど50歳・60歳の卒業生に当番幹事になってもらい運営を手伝ってもらおうのが恒例になっています。50代60代になるまでは仕事に人生に必死で東京とどの実会にはなかなか関心が持てなかつたという人が多いのですが、当番幹事を担当したことがきっかけになり同期会が盛んになるということも珍しくありません。来年は52期62期の皆さんが当番幹事ですので、この機会に同期の絆を更に深めてください。

来年の第70回集いは70回という節目の記念大会でありかつ母校創立百周年に重なる意味深い集いとなりますし、2年連続の延期で待ち遠しい限りです。コロナ禍が退散し会員の皆さんに無事再会できることを心から念じています。

ワクチンの接種が普及し効果がでるまでまだ時間がかかりそうです。会員のみなさんにおかれましてはこれまで通り「感染しない・させない」、不要不急の外出・三密を避けマスク・うがい・手洗いを励行してください。元気でさえいればまた必ず会えます。それまでくれぐれもご自愛ください。ますようお願いいたします。

い、ということですが。

新型コロナウイルス感染拡大は大変な危機ですが、同時に、いつでもどこからでも楽しんで頂ける（勿論リアル訪問も含めてですが）、ミュージアムに変化するチャレンスを与えてくれていると認識し、日々取り組んでいます。

コロナによって変わった距離感

平成14年卒 三好真理子

現在化粧品メーカーで研究職の仕事をしています。

2020年2月末、突然会社社より

通じた見学などが必須である、ということです。言い換えると、「時空を超えて繋がるミュージアム」でなければならぬ



いゆるモノづくりの仕事で、実験台で様々な原料を混ぜ合わせて商品を作る。デスクワークもあるが、それだけでは新しいものを生み出すことは出来ないため、非常にストレスを感じたのを覚えている。徐々に会社も可能になり、現在は在宅勤務と出社を組み合わせる形態を取っている。この勤務形態の変化は、

高校時代・旧校舎の思い出

昭和40年卒 前田 良三

私達は創立40周年を迎えた昭和37年（一九六二年）に入学した。9月には創立40周年式典が体育館で挙行されたが、バスケットボールコートが2面取れる体育館は当時の道立高校では最大のものであった。大正12年（一九二三年）の秋に完成した旧校舎は当時既に39歳を迎える老校舎であったが、私の眼には黒光りする風格ある建物に思えた。前庭には多くのポプラが生い茂り、5月下旬には白い綿のような花が舞い飛ぶ大変牧歌的な風景だった。仲の良い友人たちとその庭で弁当を広げて学校生活や将来について語ったことが懐かしく思い出される。

1年時の芸術科目は、絵画が苦手な書道を選択した。1週目は練習、2週目は提出用の清書だったが、1週目は前庭にあった図書館へ行って仲間と雑談し、清書日には上手な級友が練習で書いた半紙を貰い受けて自分の名前を書いて提出することもあった。級友は80点、譲り受けたものは78点。因みにお爺さん先生に頼み込んで書いて頂いた半紙を提出したら85点だった。なんとも長閑な良き時代であったと思う。

3年時は正面左側の2階の教室で、真下は職員室だった。大掃除の時にバケツの水を撒いて掃除に励んでいたところ、水漏れのする職員室から先生が来られて、「随分頑張っているな」と言われて帰っていた。

様々な変化を引き起こした。いちばん大きく感じるのは距離感の変化である。在宅勤務により、会議は基本テレビ会議になった。そうすると、ネットワークさえあれば、例え海外の事業所でも気軽に話し合えるようになり、距離感が大きく縮まったように感じる。一方で、対面の仕事をしていった人と直接会うことは難しくなり、あらゆる人との距離感が一様になつていくように感じる。

悪い面だけではないが、今、同じ空間を共有出来ることの尊さを強く感じる。

昭和59年卒 渡邊 範道

当たり前を取り戻すまで

電車に乗っている人すべてがマスクをしている光景を見て、最初は怖い映画のワンシーンかと思いましたが、今ではすっかり日常の風景となっています。新型コロナウイルス禍は、一年たった今でも収束の気配はありません。

学校も全国一斉休業、再開後のオンライン授業開始、インターハイはじめ部活動の大会中止、体育祭、文化祭、修学旅行など学校行事の中止や縮小など、これまで体験したことのない一年となりました。それまでの当たり前を突然失った子供たちは、とても辛い思いをしたことと思います。小中高校生の自殺が過去最多になったというニュースも報じられました。本当に心が痛みます。

私は、都立高校の校長として、突然の一斉休校の対応や、保護者や在校生の



文化祭・仮装行列「天狗まつり」

かれたのも懐かしい思い出である。

高校生活の中でも特に思い出深いのは文化祭・仮装行列だ。1年時は「ガリバーと小人達」、2年時「海賊バイキング」、3年時「天狗まつり」と大きな出し物が続いた。特に3年時の「天狗」は創立70年史にもその写真が掲載されるほど、市民からの評価も高かった。1年時の頃は学校への泊まり込みも暗黙の了解であったが、年々厳しくなり3年時は夜10時頃には下校の指示があったように思う。夜の暗い前庭で、出し物である天狗みこしの準備、仮装行列の衣装や小物の作成、炊き出しの準備等、男女協力しての作業は青春の一ページを飾る思い出である。

このクラスは卒業後も変わらず大変仲が良く、今年後期高齢者になる今でも全国各地で修学旅行クラス会を開いている。これまでに大阪・京都、東京の隅田川屋形船、富山・風の盆、有馬温泉と宝塚観劇、小樽と積丹半島、十勝岳温泉と旭川、ウトロ、野付半島、十勝川温泉などを皆で訪れた。もうすぐ喜寿を迎えるが、その先の傘寿、米寿までクラス会が続くことを願っている。

いない卒業式の実施を慌たしく終え、別れを惜しむ間もなく都教育委員会に異動となりました。その後も、歓迎会や事業の打ち上げ等懇親会はすべて中止。新型コロナウイルスは、人との交流や親睦が大好きな私のような人間を直撃した凄惨なウイルスだと思っています。

とどの実会の幹事会や総会も中止となり、寂しい限りです。改めて、これまでの当たり前のような出会いを失うことの意味を重く感じる日々です。都庁でもテレワークが推奨され、私も家族との時間と家飲みは増えましたが、リモートの会議や飲み会には、新たな可能性を感じつつも、人が直接交流する機会を減らす寂しさを感じます。

本会の活動も、今は我慢の時だと思います。コロナ禍の収束後に、皆さんと直接お会いして、これまで脈々と培ってきた本会の当たり前の「よさ」を取り戻せる日が来ることを楽しみにしています。



★年会費納入のお願い★

東京とどの実会は会員のみなさんからの会費で運営しています。今年度分の年会費も会場受付でいただくことができませんので、同封の払込取扱票にて振込いただけますようご協力をお願いいたします。